

Uターン歓迎！市内企業28社の求人情報を掲載 富良野へ帰ってこないかい？

富良野にUターンして見つけた自分らしい毎日

富良野を離れ進学・就職した富良野出身者の10人に1人は、再び地元に戻り新しい生活をスタートさせています。そんなUターン就職者の方にインタビューし、仕事のこと、生活のこと、ありのままの富良野ライフを語っていただく新企画。今後「広報ふらの」9月号から3回連載します。

故郷で取り戻した—心にゆとりのある暮らし

激務の生活からUターンを決意

4年前の井上さんは、札幌の商社に勤め、朝から深夜まで忙しく働いていました。体力の限界はもちろん、子供が生まれたばかりなのに、育児に関わる余裕がないどころか、顔を見る時間さえない状況で、転職を決意。しかし、札幌では条件に合う企業が見つからなかったそう。そんな時、富良野の実家のアドバイスでUターンを視野に。「元々、妻とは共働きになった時、どちらかの親が近くにいれば、子育てが安心という話をしていたんです。当時はまだ子供が乳児で、環境を変えて

も支障がない時期。帰郷のチャンスでした」。同郷の先輩に就職先を紹介してもらい、30代前半で帰郷しました。

昨年には、実家の隣に新居が完成し、より両親に子育てを手伝ってもらいやすい環境に。「両親は孫の成長を間近で見られて嬉しい反面、年齢を重ねているので、両親を頼り過ぎないように気をつけています」と井上さん。車社会の富良野では、両親が年を取って運転できなくなることも心配しており、Uターンは将来のことを考えても正解だったようです。



敷地内同居で支え合い、仲良く暮らす井上さん家族。井上さんの両親は元農家。実家の隣に新居を構え、土地代を節約



会社のバックアップが厚く、仕事もプライベートも充実

家族みんな富良野の自然が大好き

富良野に引っ越して心配だったことは、旭川へ子供用品を買い出しに行ったり、ゴミを細かく分別したりと、妻・美智代さんの負担が増えること。「友達が少ない土地で心細くならないか不安でした。でも、妻が自然いっぱいの景色や、おいしい野菜を喜んでいたのでひと安心」。今では美智代さんも、ママ友が増えたり、就職した職場で仲間ができたりと、富良野での生活に慣れてきたのだぞ

う。「いつも頑張っているのでも、たまには主婦業を忘れて、友人たちと息抜きしてほしい」と、妻への感謝の口になりました。

3人の子供たちは、富良野の自然の中で元気に成長。家庭菜園に実った野菜や果物が大好きで、つまみ食いすることもしょっちゅう。「僕の生まれた場所で、子供が昔の僕と同じように遊んでいることが感慨深いです。ここでのびのび育ってくれたら嬉しい」。

地元に戻ってきてからは家族の時間が増え、夏は庭でバーベキュー、冬は雪遊び。「季節を楽しみながら暮らしていると、時間がゆっくり流れているように感じる」と言う井上さんは、今、忙しく過ごしてきた暮らしを変え、大切な家族と共にスローライフを満喫しています。



大北土建工業株式会社 総務部労務課
井上 博之さん (34歳)

PROFILE

富良野高校卒業後、中国・復旦大学へ進学。卒業後は、身につけた語学力を生かして札幌の商社に勤務した後、4年前、富良野へUターン。市内ホテル勤務を経て、大北土建工業に転職。現在の職場では、未経験の業務にチャレンジしています。



新卒特集
平成30年3月卒業

Uターンふらの出身者
採用企業特集

新コンテンツ
農業×ふらの

新コンテンツ
子育てママへ